

新聞におけるスポーツ欄の扱い

及びスポーツ欄におけるバスケットボール記事の現状把握

A study of a position of sports sections on the news paper and an article of basketball in those sections

1K07A146-3 徳永祐人

指導教員 主査 倉石 平 先生 副査 作野 誠一 先生

【緒言と目的】

現代の新聞において、スポーツ欄がどの程度の割合を占めているかは各社様々であり、明確ではない。本研究において具体的な割合を分析する事は、実際に、新聞がスポーツをどのように取り扱っているかの現状把握につながると考える。スポーツ間の報道格差が起きている現状で、新聞メディアにおいてのマイナースポーツの露出度を分析する。バスケットボールに特化し、新聞におけるスポーツ欄の扱い、及びスポーツ欄におけるバスケットボール記事の現状把握を目的とする。

【方法】

朝日、読売、毎日新聞の縮刷版（朝、夕刊）を用いて、それぞれの記事数、記事面積、及び記事内容を分析した。オンラインデータベースを用いる事で、より確実なデータを得られるようにした。分析対象期間は2009年1月～12月31日である。

【結果】

<新聞におけるスポーツ欄の割合>

スポーツ欄に関して、1年を通して8月（朝日11.2%、読売10.1%、毎日11.8%）が最も高い割合を示している。年間の平均値を見てみると、高い順に、毎日新聞（9.1%）、読売新聞（8.2%）、朝日新聞（7.6%）となった。3社の平均は、8.3%であった。

<スポーツ欄におけるバスケットボール記事の割合>

朝刊において、1年間の日本バスケット記事の総数を比較すると、毎日新聞（287枚）、朝日新聞（273枚）、読売新聞（226枚）という結果になった。記事面積の年間平均値は、朝日新聞（306.9cm²）、読売新聞（163.2cm²）、毎日新聞（159.4cm²）であった。スポーツ欄におけるバスケット記事の割合は、3社とも1%を割る結果となった。

NBA記事総数は、毎日新聞238枚、朝日新聞217枚、読売新聞31枚である。記事面積の年間平均値は、朝日新聞131.7cm²、毎日新聞109.5cm²、読売新聞48.4cm²であった。

スポーツ欄におけるバスケット記事の割合は、3社とも1%を割る結果となった。記事内容から、3社の中で最も朝日新聞が、結果に試合内容の詳細を加えて報道していたが、3社ともに写真を使った報道の数は少なく、bjリーグや日本代表の試合においても、記事面積の広い大々的な報道はされていなかった。

【まとめと考察】

朝刊において、3紙の新聞の構成項目数が約20である中で（20項目である場合、1項目当たりおよそ5%が平均）、およそ平均8.3%をスポーツ欄が占めているデータから、朝刊において、スポーツ欄はしっかりと確保されている事が立証できた。夕刊では、読売新聞におけるスポーツ欄の割合が他の2社に比べ約3～5%下回っている事から読売新聞は、夕刊においてスポーツ欄を重視していないという事が示唆される。

プロリーグであるbjリーグが、最も盛り上がるべき時期の記事掲載量、記事面積の少なさが、現在の日本において、バスケットボールがメジャースポーツと言えない要因の一つと言えるだろう。bjリーグとNBAの記事面積より比較すると、現代のメディアにとって、bjリーグよりもNBAに関する情報を重んじる傾向が示唆された。

しかし、日本バスケット、NBA記事の双方の記事面積を加算しても、スポーツ欄全体の1%にも満たないこの現状は、今の日本の新聞メディアにおいて、バスケットボールというスポーツの情報が、全くと言って良いほど重視されていないという現状が露呈される結果となった。現状把握を行った上で、監督等の意見を組み入れた、結果のみではなく内容のある報道を提案する。

今後、スポーツ報道格差を改善していく為には、他競技と比較し、よりマイナースポーツとメジャースポーツの間にある報道格差の明確化が必要である。また同時に、報道側におかれている諸問題にも踏み込んだ多角的な究明が必要であると考えられる。

